

岡山大でトップ会合開催

おかやま未来共創アライアンス

岡山大学と中国銀行は10月21日、同大にて連携協定「おかやま未来共創アライアンス」に基づきトップ会合を開催した。

同協定はお互いの情報やノウハウを共有し、地域と連携しながらSDGsの達成に取り組みむことで、地域の発展に貢献し、未来を共創していくことを目的に2021年2月に締結している。



開会挨拶をする榎野学長



意見を述べる加藤取締役頭取

協定に基づき、①地域産業に根差した研究成果の社会実装、②オープンイノベーションの活性化、③ベンチャー企業育成による産業振興と地方創成、④地域住民のwell-beingを高めるための同大病院の高度医療サービスの外部提供、⑤新生工学部を基盤とした、ウィズコロナ・アフターコロナ時代の喫緊の課題である地域産業におけるDX・SXの推進等について、双方が連携し精力的に事業を実施している。

トップ会合では、榎野博史学長、中国銀行加藤貞則取締役頭取をはじめ双方の担当役員が事業の進捗状況を確認し、活発に意見交換を行った。また、細羽紀子地方創生SDGs推進部部長から、11月に同大へ若手職員を出向させることについて報告があり、これに対し榎野学長から謝辞が述べられ、今後も人事交流を行い、連携を深めていきたいとの発言があった。

広島大・呉高专が実証実験

「グリーンスローモビリティ」

広島大学および呉工業高等専門学校は、10月6日から15日までの間、呉市天応地区において、新時代の新しい「交通手段」として期待される「グリーンスローモビリティ」を活用した実証実験を実施した。

この実証実験の目的は、同大学院先進理工系科学研究科の藤原章正教授、呉高专環境都市工学分野の神田佑亮教授を中心に、日常生活などにおける新たな移動手段の利用可能性を検証することである。

実証実験では、呉市天応地区の住民を対象に、電動カート「グリーンスローモビリティ」に実際に乗車し、市民センターや天応駅バス停への移動の体験してもらう。また毎週木曜日に開催される「天応 de 出張販売」での買い物客の送迎や事前注文された商品を届ける貨客混載の試験的な取組を行い、利用者の方の反応、交通手段として実装する場合の課題の検証を行う。実証実験を行っている地域は、平成30年7月豪雨災害で被災した地域であり、住民は、いざという時の避難のため新たな交通手段の導入に向けた実証実験に熱心に取り組んでいる。



電動カート「グリーンスローモビリティ」

この実証実験の目的は、同大学院先進理工系科学研究科の藤原章正教授、呉高专環境都市工学分野の神田佑亮教授を中心に、日常生活などにおける新たな移動手段の利用可能性を検証することである。

II 広島大学 II

附属高校の講義に留学生参加

10月18日、広島大学附属高等学校における「スーパースサイエンス・ハイスクール」F5（フロンティアサイエンス）講義「大学国際化・異文化間理解」国際的に活躍する研究者を目指して（英語・日本語）」（森戸国際高等教育学院、恒松教員担当）に同大留学生（海外在住、東広島）がオンラインで参加した。大学の国際化や異文化間理解における課題、カルチャーショック・逆カルチャーショックについての同講義には、約200人の第一学年の高校生が参加した。



広島大学附属高校におけるFS講義

海外からはアメリカ、メキシコの交換留学生・留学生OBが参加した。同大に留学中のインドネシア・マレーシア・中国の大学院生も参加し、留学生のさまざまな体験について聞くことができた。高校生には、世界の留学生とオンラインで英語によりつながる新しい国際教育の体験の場となり、熱心に聞き入る姿があった。

る大変有意義な時間となった。